令和７年６月大竹市議会定例会（第２回）

一 般 質 問 通 告 表

１．　　**14番　細川　雅子　議員**

質問方式　一問一答

大竹市観光振興計画の策定と同時に、大竹市文化財保存活用地域計画を作りましょう

観光振興計画の策定は、交流人口を増やすことで賑わいを作り、関係産業の活性化を促します。また、本市の自然、歴史、文化の価値を高め市民のアイデンティティの醸成にもなると考えます。

一方、観光に重点を置きすぎると文化財の保護や継承が後回しになる懸念もあります。

本市にある文化歴史資源の中には、国登録や市の重要文化財の指定に至らないものも数多くあります。観光と同時に、指定文化財も含めこれらの市民の財産の保護と活用についてのしっかりとした計画が必要だと考えます。

２．　　**６番　小出　哲義　議員**

質問形式　一問一答

事故や犯罪のない安全・安心な地域づくりを如何に推進しますか

第２期大竹市まちづくり基本計画が策定されました。人口減少と上手に付き合いながら、まちの機能を維持し、活力を損なわない持続可能な地域社会を構築することを趣旨としています。

広島県警察本部のまとめでは、平成15年以降一貫して減少していた刑法犯の認知件数は令和３年頃より増加に転じ、居住地域において不安を感じる指数は、年々増加しています。県内の防犯ボランティア団体数は平成22年の839団体をピークに、構成員は平成22年の51，854人をピークに減少傾向にあります。各団体とも構成員の高齢化と、人員の確保、モチベーションの維持などの課題を抱えています。一方「匿名・流動型犯罪グループ」に代表されるように、犯罪がより巧妙化、狂暴化、広域化しています。

本市において、「事故や犯罪のない安全・安心な地域づくり」を実現する為、本市の目指す姿、現状と課題、主な取り組みをお尋ねします。

３．　　**９番　中川　智之　議員**

質問形式　一問一答

高齢者の孤立化を予防するために聴覚補助器等の積極的な活用の支援について

高齢化の進行に伴い、難聴の方も年々増加している。特に高齢者が難聴になると、人や社会とのコミュニケーションを避けがちになり、社会的に孤立する可能性が高くなる。また難聴になると、耳から脳に伝達される情報量は、極端に少なくなり認知症のリスクが高まるといわれています。この対策として補聴器の活用が有効である。こういった聴覚補助器を必要

としている方への聴覚補助器購入費用を補助すべきと考えます。
　聴覚補助器には、マイクで収集した音を増幅して外耳道に送る気導補聴器のほか、骨導聴力を活用する骨導補聴器や、耳の軟骨を振動させて音を伝える軟骨伝導補聴器などがあります。高齢者が自分に合った聴覚補助器を選択し、適切に活用できる環境の整備は、大変重要であると考えます。
・本市における高齢者の難聴の実態と、難聴がもたらす社会的な影響（孤立や認知症リスク）についての認識を伺う。
・現在、聴覚補助器（補聴器等）の購入に対する補助制度の有無及びその内容について伺う。
・聴覚補助器の購入費補助制度の導入について、本市の検討状況や今後の対応方針を伺う。

４．　　**２番　中野 友博　議員**

質問形式　一問一答

ふるさと納税の今後の方向性について

　４月の中国新聞の報道にもありました通り、大竹市のふるさと納税での寄付額が初めて10億円を超え、寄付額、件数ともに２年連続で最多を更新されました。この好調の要因についてどのように分析されていますか。これまでの本市の取り組みを含め総括を伺います。
　また、かつてのふるさと納税は「肉・魚・米（農作物）＝三種の神器」と呼ばれ、ボリューム感・高級感が支持されて爆発的に伸びた時期がありました。しかし現在は、制度が成熟してニーズが明確に多様化している時代となっています。
　本市として「もらえる」から「共感して応援できる」形のブランディングも行い、さらに選ばれる自治体となるために、ふるさと納税のこれからの考え方について伺います。

大竹市観光振興計画策定事業について

　令和６年12月定例会の一般質問にて、下瀬美術館ができたことで増加した観光客、また旧小方中学校跡地に計画している道の駅を見越して、本市の観光の指針となる大竹市観光振興計画策定について提案させていただいた件で、令和７年度大竹市当初予算の概要に新規事業として採用されました。
　令和７年度の取り組み内容、スケジュールも合わせてお伺いします。
　また、本市では初めての観光振興計画策定となり、中長期を見越した計画書を策定するためには、ビッグデータの量・質・分析が非常に重要になってまいります。令和７年度予算書では、債務負担行為にて観光振興計画策定に関する経費を計上されていますが、どこまでの作業を想定されていますでしょうか。関係人口増加に向けた取り組みを加速するためにも、今後の方向性、考えについて伺います。

５．　　**13番　日域　究　議員**

質問形式　一問一答

不登校児童生徒が激増しています。不登校対策を真剣に考えていますか。文科大臣の事態を矮小化したような見方は受け入れ難いです。

　原因の追究はせずに、不登校でも大丈夫だと文科大臣。
　そんなはずはありません。そもそも親も本人も不登校になって困っているんです。文科省には不登校と届けて、学籍簿には出席と記す矛盾。これは適正処理なのでしょうか。問題に真剣に向き合わない姿勢に腹立たしさすら感じます。文科省はさて置いて、大竹市で頑張りましょう。まず行きたくなる学校ってどんな学校でしょうか。

６．　　**５番　岡　和明　議員**

質問方式　一問一答

観光振興や文化財活用への関心が薄い問題について

広島県観光課の資料「令和５年(2023年)広島県観光客数の動向」によると、大竹は県内23市町のうち大崎上島町、熊野町、海田町に次いで観光客が少ないことがわかります。しかも大竹で「観光客」が一番多いとされる項目「大規模公園等」では晴海臨海公園の市内の利用者をカウントし、３番目に多い項目「海水浴・釣り・潮干狩り」では阿多田フェリーの乗船者を全て数えています。この資料で大竹に観光客が38万人も来ていることに驚く人もいるでしょうが、実態はこの通りです。

３月５日の「小方まちづくり特別委員会」に提出された資料「国土交通省が実施した広島港(宇品地区)から大竹港(小方地区)への小型船によるクルーズ旅客輸送に向けた実証事業の結果等」によると、小方港から上陸して下瀬美術館に行った実証事業参加者から「美術館と組み合わせる観光素材があればよい」と至極当然な意見が出ています。

このように施策の必要を強く感じさせる客観的なデータや意見があるのに、これまで本市が動こうとせず、今もまた動こうとする姿勢を見せないのはなぜですか。特に構想されるクルーズ船の到着地の眼前に、県内で天守閣を備えた３城の一つだった亀居城があるのに、２月13日の議員全員協議会に示された「第２期大竹市まちづくり基本計画」に、この本市最大の文化遺産への言及すらないのはなぜですか。

小方中学校跡地に構想する道の駅がトラックの荷待ち場に利用されようとしている問題について

市がコンサルタントに作成させた『小方まちづくり「にぎわい交流ゾーン」立地検討業務報告書』（平成30年３月）には、もし小方中学校跡地に道の駅を作った場合、駐車スペースを「大型車40台、小型車68台」と想定しています。

北側を道路用地に削って、現状以上に間口が狭くなる奥長の敷地に「大型車40台、小型車68台」というのは道の駅としては異常です。大型車（トラック、トレーラー）１台に必要な駐車スペースは小型車３～４台分にあたります。大型40台、小型68台だと、大型車スペースが３分の２を占める計算です。３台分として64％、４台分なら70％にもなります。こんなトラックのスペースが大半を占めるような道の駅を作ってよいのでしょうか。

私がこれまで、狭い奥長の中学校跡地に道の駅を作る問題を指摘したところ、「国道２号線の海側に工場があるから道の駅も海側に作る」という旨の答弁がありましたが、要するに工場に出入りするトラックの荷待ち場にする意図があるようですが、そのような道の駅を作ってよいのでしょうか。

小方橋の改修で自転車の利用環境がさらに悪化する問題について

５月23日の生活環境委員協議会に土木課が示した「小方橋の改修」の図面を見ると、新しく架け替えられる橋と、それに接続する新しい道路（飛石港前－小方ポンプ場前）は自転車の通行が考慮されておらず、自転車が通行する車道の幅は以前の道より狭く描かれています。

この区間は自転車の通行が比較的多く、これまでも自動車と接触しそうになる危険な区間でした。新しい道になって自転車の利用環境が悪化するというのは納得がいきません。

私がこの問題を５月23日の生活環境委員協議会で指摘したところ、担当職員から「危ないと思えば自転車を降りて歩道を歩けばよい」旨の答弁があり、一層納得できない思いでした。

オランダをはじめとする多くの先進地で自転車専用レーンの整備が進んでいます。晴海から立戸方面に移動するルートは①玖波青木線、②国道２号線の２つしかありません。このう

ち①は立戸２丁目までの走路が複雑・狭小で多くの人が自転車で通りたがりません。②もゆめタウン前からタマホーム前までの２号線は自転車の走行に適しません。自転車が小方橋を経由しようとするのは自然です。特にゆめタウンから小方ポンプ場前までが自転車の通りやすい道になっていることから、自然とこのルートに誘導されますが、その先の小方橋付近が改修により車道の環境がむしろ悪くなるようでは、この地域の自転車利用の環境は長期にわたって改善の望みがなくなります。このようなことでよいのかお尋ねします。

７． **４番　山代　英資　議員**

質問形式　一問一答

下瀬美術館との観光施策の連携について

昨年の第５回大竹市議会定例会の一般質問答弁において入山市長より、「大竹市は観光を産業として考えた場合、観光地のみでは滞在時間が短く観光による消費もあまり見込めず、観光を生業としている事業者もほとんどいない。これまではどちらかというと市のＰＲという観点から自然や文化的施設の観光資源を活用してきたが、2023年の下瀬美術館オープンを境に、一定の滞在時間を過ごすことのできる美術館を目的に観光客が訪れるようになった。」との答弁がございました。

下瀬美術館は2024年５月に来場者数も10万人を超え、その後、2024年12月に「世界で最も美しい美術館」としてベルサイユ賞を受賞しております。

今なお多くの来場者が訪れる状況にタイミングを計っている場合ではないと考えます。

増えている＝大竹に訪問しているということだと考えますが、その来場者を取り込む施策を市はどのように行っておりますでしょうか。コラボレーション等の活用方法も含め、本市のお考えを聞かせてください。

本市の庁内ネットワークの状況について

庁内のネットワーク通信のボトルネックとなっていた基幹の通信機器の更新を2023年度に行ったと聞いております。

運用面等で改善状況は如何でしょうか。庁内の無線化の状況と併せて教えていただけませんでしょうか。

また、今年は令和６年度からの大竹市情報化推進計画３ヵ年の真ん中の年度となりますが、広報誌でも書かない窓口をうたっておりますし、私の令和６年度の一般質問への答弁でも市民サービスの向上や内部事務の効率化など具体的な効果が目に見える形で現れてくることを期待しているとございます。

どのような進捗がございましたでしょうか。

８． **３番　豊川　和也　議員**

質問形式　一問一答

モルックのまち大竹市を目指しませんか？

日本全国でモルックが人気でスポーツ人口が急増中です。モルックの良いところは、ルールが簡単、老若男女楽しめる、戦略などもあり頭も鍛えられる、というところだと思います。

本市におきましても、この５月に第一回市民インドアモルック大会が開催されました。

これを機に、大竹市といえばモルックというまちのイメージ的な位置づけにしてもらいたいと思うのですが、本市のお考えをお聞かせください

本市の防災リーダーによる交流を増やしませんか

現在、本市認定の防災リーダーが公式に集まる機会と言えば、年に一回の防災リーダー・フォローアップ研修会のみです。

その中でも「もっと防災リーダー同士が意見交換し合う機会がほしい」など意見も出ていました。

防災リーダーの集まるセミナーなどを増やし、地域の情報などもっと意見交換する機会があればと考えますが、本市のお考えをお聞かせください。

民生委員のなり手不足の解消策をお尋ねします

民生児童委員の将来的な担い手不足解消に向けた取組について、お伺いをさせていただきます。

本市では、今現在民生委員の欠員地域があるとお聞きしましたが、欠員地域があると困ってしまうのはその地域の方々です。

現在はどのような対策をしているのかお尋ねします。